

## ネイチャーセンター ガイド (114)

本気で遊ぶとは、こういうことだ!!

「遊びの中から学んで、どんなことなの？」なんてよく聞かれます。学んでなると難しくとらえがちですが、とっても簡単なこと。子ども自身に考える機会を与えることです。言い替えば、大人があんまり口や手を出しすぎないこととも言えます。あっちはダメ、こっちもダメ、それは、あれは、これもダメ、あそこは入っちゃダメ、行っちゃダメ、大人がついていかなくちゃダメなど、地域、近所の遊び場がなくなってるんです。見守られながらでないで遊べない世の中になってしまっているのも残念なことなんです。遊びは好きであっても遊び方を知らない子どもが増えていることを目の当たりにしたのです。

先日、地域の子どもたちを連れて溪流釣りへ出かけました。子どもたちは「釣り」ができるということで、少々興奮気味。釣り竿は春先に採っておき、乾燥。川へ着くなり、仕掛けづくり。これは面倒なお仕事。透명한釣り糸を結んだり、針やおもりを付けたりと、細かなかつ神経を集中させないとできません。器用な人ならまだしも不器用な人はイライラしてしまうはず。この作業は内に秘められた性格が浮き彫りになるんです。最近では、プラモデルみたいなキット製品が大流行！時間に追われたり、楽しむことを忘れさせる完成された遊び道具が子どもたち本来の「遊びの目覚め」というものを消し去っているのです。

目覚めとは、ひらめき、考え、失敗、挑戦の繰り返しの意で、この繰り返しが訓練となり、生涯にわたりあらゆる分野で応用されます。この目覚めがあるから「昔遊び」って面白いし、あえて子どもたちにやらせてもらっているんです。「時間がかかって、面倒だし」なんて、出てくる言葉がこれだから、子どもたちが目覚めなくなっているんです。

いよいよ仕掛け作りも終わり、舞台は川へ。餌を探します。餌を見つけたら何をするのか？それが今回の目覚めでした。「遊ぶのか？針に餌をつけるのか？」どっちに転がっても良かつ



たのですが、彼らの興味がどこへ向けられているのかわかりませんでした。そのために、指示はあえてしませんでした。川遊びを満喫しないと、釣りへは発展しません。川遊びは、川を知り尽くすこと。知り尽くすと、次の領域に満足を求めます。川の遊びは無敵だから、何をすることも自分で考えて動く。そうすれば、時間はかかるけど「とにかく楽しい」のです。こうして、子どもが考えながら遊ぶ、動くということにつながるのです。

今、博物館や美術館で行っている教育普及活動やイベントは、お金を払い、キット製品を組み立て、遊ぶ。時間を気にしながら・・・そこに子どもたちの考え遊ぶことは生まれているのでしょうか。ルールに乗せられ遊んでいるとしか思えません。そこに考え・遊ぶというねらいがあるのでしょうか。「きっかけづくり」という抽象的な言葉、あやしすぎます。そこに館側の十分な考えが詰まっているのでしょうか。きっかけを与えるばかりでその先の領域を知っているのでしょうか。遊びとは何ですか？と聞いてみてください。

ものがありすぎて、そこにあって当たり前。ものがあると考えをやめるんですね、人って。ものがないと不安になるし、不安を解消するために、考えるんです。子どもたちの考えを止めているのは、この社会、大人たち。

子どもたちは、考え・遊ぶことで「自信」を付けたいと訴えています。その姿を見たくて、子どもたちに会いに行きます。そんな使命さえ最近感じます。そして自信を「確信」にかえるその時まで、子どもたちと会い続けたいと強く思っています。

連絡・問合せ先 ☎(45)6222

宝の山ふれあいの里ネイチャーセンター  
開館時間：午前9時から午後4時まで  
休館日：月曜日、祝日の翌日